●JICA国内研修ゲンバ訪問記 番外編 VOL.20 世界の国のお菓子づくり@滋賀編

OJAMA-SHIMASU

たけだみりこ

3月×日午前10時半、野洲中央公民館の一室。

たけだみりこ　漫画家。4コマ、ショート、料理漫画を中心に活動中。著書に『セイシュンの食卓』『異国のメシーる』『クッキング カンタンタン』『キッチンの穴』など。http://majop.com/Neji/

EDITOR'S MEMO

今回紹介するのは滋賀県野洲市で一般市民対象に行われたワークショップ「世界と出会う玉手箱〜世界の国のお菓子づくり」。野洲市中央公民館とJICA大阪の共催で、(財)滋賀県国際協会で活動しているJICA国際協力推進員の坂下靖子さんが企画した。滋賀県出身のJICAボランティア経験者5人※が講師となり、それぞれが派遣された国のお菓子を作りながら、文化や暮らし、隊員の活動などを紹介するもの。県内外から29人が参加した。

紹介されたお菓子は、チリの「エンパナーダ・デ・ケソ」(チーズのお菓子)、パキスタンの「グラブジャーマン」(ココナツミルク風味ドーナツ)、ブラジルの「ブリガデイロ」「ベイジーニョ」(チョコとココナツのお菓子)、モロッコの「ブリワーツ」(アーモンド味とスパイシーな牛肉のお菓子)、ネパールの「シェル」(米粉の揚げ菓子)と「チア」(ミルクティー)。参加者は5カ国に分かれてお菓子を作り、現地の写真を見ながら元隊員の話を聞いて、各国とお菓子を紹介するポスターを作成した後、皆で試食しながら発表会。途上国のお菓子を作るのはもちろん、世界の国のことを知るイベントに参加するのも初めての人が多かったが、「また参加したい!」という声が多数寄せられた。

※青年海外協力隊員4人と日系社会青年ボランティア1人。